

『將來之東北』

半谷清壽 [著]

丸山舎書籍部刊 / 1906年9月 / 23cm / 230頁 / 図書番号 OA-0596

著者半谷清壽（はんがい せいじゅ 1858－1932）は福島県相馬郡小高町に生まれ、この地域の発展に力を尽くした人物である。双葉郡富岡町夜ノ森の開拓を行い、福島県会議員及び衆議院議員をも務めた。有志と共に養蚕や絹織物等様々な事業を計画したが容易には軌道に乗らず、金融や流通面でも数々の困難にみまわれた。そこでまず東北の発達を図り、それと共に相馬も発達させて事業を盛んにすることに思い至り、本書を著した。

明治維新後の約 40 年間、東北は戊辰戦争の影響や頻発する自然災害のために産業不振が続いていた。その回復を図るために東北の問題を研究するのに先立ち、第 1 章「総論」では東北と国家や東京等との関係を明らかにし、東北の盛衰は東北のみの問題ではないことを主張する。日露戦争後の国家戦略として対外貿易に当たるには、東京と大阪を国内における流通の中継地ではなく対外貿易の拠点とすべきであり、そのためには国は東北に保護奨励を与えて商工業を盛んにし、国内の東西の均衡を図る必要があるとする。東京が大阪に対抗して経済的勢力の発展を望むなら、東京と近接し資源にも富む東北の発達を促し、そこに工業を勃興させて海外輸出品の生産地としなければならないとする。

第 2 章「現在の東北」では、東北が抱える問題点を列挙する。東北は地理的に社会が小区画に分断され、交通の便も悪く、生活が自給自足的にならざるを得なかった。その結果、産業発達の機会を欠き、産物はあっても商品的な改良が促されなかったことや、農業や衣食住等あらゆる面を、気候や地理や社会の全く異なる西南に倣ってきたために、様々な弊害があらわれていること等である。また東北人に対しては、世間の事物に疎いことや社交性に欠けること、未だ共同の利益を認識していないこと等を指摘する。

第 3 章「将来の東北」では、これらの問題に対する改善案を示す。衣食住を東北に合ったものに改めるのは勿論のこと、農業については気候風土に適した作物と農法を採用する。林業については、工業の進歩により建築用材・工業原料としての需要増加が見込めるため、天然林だけでなく造林を行い、収益増加を図る。漁業については、優れた漁場に近接する特色を活かし、近海漁業だけでなく遠洋漁業も興す。工業については、豊富な水力を工業の原動力となる電力に変換し、恵まれた埋蔵資源を利用して鋳業、銅鉄器製造業等を振興させる。養蚕業については、今後世界市場で競争してゆける産業であると考えられるため、これを第一の産業として盛んにし、製糸製絹等の事業を拡張する。東北人に対しては、今後自給的生活を改めて社会で活動してゆくために、社交の基本として実際的な礼儀作法を身につけることや、他人と共同し広く世間を相手に事業を行うことの利益を説く。また、東北の短所長所を明らかにし本領を解釈するため、東北全般の研究を行う組織の設立を望む。続いて国家に対する要望として、東北に中央市場を設け経済的分権自治を与えること、横断鉄道や港湾等の交通を整備すること、東北の実態に適合した実業教育を行う事等を挙げる。さらに、東北の諸問題を解決するための調査機関として東北調査会の設置を求める。

（山野辺香葉・市政専門図書館司書主任）